

浜松市内高等学校新人陸上競技対抗選手権大会における 新型コロナウイルス対応について

【大会当日の提出物】

- ・「健康調査一覧表」・・・顧問、引率責任者、部活動指導員、外部指導者、出場選手、補助員など各学校の来場者全員分の大会1週間前からの体調をまとめ、提出する。
※朝の段階で全員分の体調チェックが終わっていない場合には集まり次第、本部に提出し、確認を受ける。
- ・「大会参加同意書」・・・出場選手、補助員全員分の同意書を回収し、各校で保管をする。

【入場規制について】

昨今の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、以下のようにする。

《顧問、引率責任者、部活動指導員、外部指導者、選手、補助員》

参加申込書に登録された選手と補助員のみ、来場可能とする。

《保護者》

選手1名につき、2名まで入場ができる（未就学児を除く）。来場の際には大会1週間前からの体調チェックを行い、「体調管理チェックシート」を観戦エリア入場口で提出する。選手、引率エリアには立ち入ることはできない。

※静岡県及び浜松市の新型コロナウイルス感染者数の状況により無観客となることもある。

《学校関係者、職員》

観戦エリアにて観戦ができる。来場の際には大会1週間前からの体調チェックを行い、「体調管理チェックシート」を観戦エリア入場口で提出する。選手、引率エリアには立ち入ることはできない。

顧問・選手にむけて

① 検温、健康チェックの実施

選手は、指定の「体調管理チェックシート」を活用し、大会1週間前から検温等、健康チェックを実施すること。

以下の場合は、当日の来場と出場を認めない。

- ・37.5度以上の発熱が見られる場合。
- ・かぜの症状（咳・咽頭痛など）がある場合。

② マスクの着用

来場するすべての方はマスクを持参し、感染防止のため、着用をすること。選手はウォーミングアップ、レース・試技の時は外すことを認める。ただし、マスクを外した時は会話を控えること。

※炎天下でのマスク着用について

熱中症の危険がある場合にはマスクを着用しなくても良いが、3密回避、ソーシャルディスタンスの確保感染症予防対策を徹底すること。

③ 手洗い、うがい、消毒の徹底

大会当日、競技場内に消毒液を設置する。こまめに手洗い、うがい、消毒をすること。特に、競技前、競技終了後は確実にを行うこと。そのために、各校でも消毒液を必ず持参し、ベンチ内で消毒ができる環境づくりを徹底すること。

④ 3密・飛散防止への対応

以下の内容を徹底すること。

- ・各校応援席、招集場所、スタート前待機場所などでは、通常以上の間隔（2m以上が望ましい）を取る。
- ・声を出しての応援は禁止とする。応援をする際には、拍手のみとする。

⑤ 接触（直接的・間接的）の防止

以下の行動は控えること。

- ・握手、ハイタッチ、マッサージなどの身体的接触。
- ・飲み物、タオル等は他人と共有。

⑥ ごみの持ち帰りの徹底

唾液や汗が付着したものも出てくるため、各自ごみ袋を用意し、各自で持ち帰ることを徹底する。当日競技場のごみ箱は使用できない。また、公園内に設置してあるごみ箱に捨てることも禁止とする。

大会当日の注意事項

※日本陸上競技連盟より「競技会開催について」のガイドラインが出ている。以下の点について、顧問・チーム代表者への指導を徹底する。

○招集 招集所では以下の点に注意する。

- ・マスクを必ず着用すること。
- ・Tシャツ、ジャージを脱いで審判員が触ることなくアスリートビブスの前後が見えるようにする。
- ・招集所での密を避けるため、招集時間を細かく区切る。そのため、各自の招集時間について、把握する。また、招集時間より早く招集所に来ることのないようにする。

○ウォーミングアップ

- ・ウォーミングアップは場所の限定なく個人で行う。
- ・密にならないように、周りとの間隔を十分に保って使用する。

○競技中

- ・競技中に倒れ込んだ選手については、役員で対応する。
- ・トラックレースでゴールした選手は、ゴール後各自で手洗い、洗顔を徹底する。また、ゴール地点に設置されている消毒を使い手指の消毒を徹底する。
- ・フィールド種目では、試技を待つ際のテント内は周りとの距離を保って座る。
- ・砲丸投では、試技後に消毒を行う。
- ・砲丸投、棒高跳で滑り止め（炭酸マグネシウム）を使用する場合は、各自で準備をする。